

「ゼロから考える少子化対策PT」 第9回会合	資料5-1
特定非営利活動法人フローレンス 駒崎弘樹氏提出資料	

# なぜ病児保育は広がらないのか？ ～ 両立しづらい日本の象徴～

NPO法人フローレンス

# 自己紹介

# 問題意識

ベビーシッターの母親から

こどものせいで仕事をやめざるを得ない親がいる

自分のこどもの頃は

団地のおばちゃんが母代わり



**病児保育問題を解決できまいか**

# 病児保育

**保育領域の中で最も社会的取り組みが遅れている領域**

# 病児保育とは

## 定義

■ 風邪や発熱など軽度の突発的な状況(そんな時は保育園が預かってくれない)で子どもを預かり、ケアすること



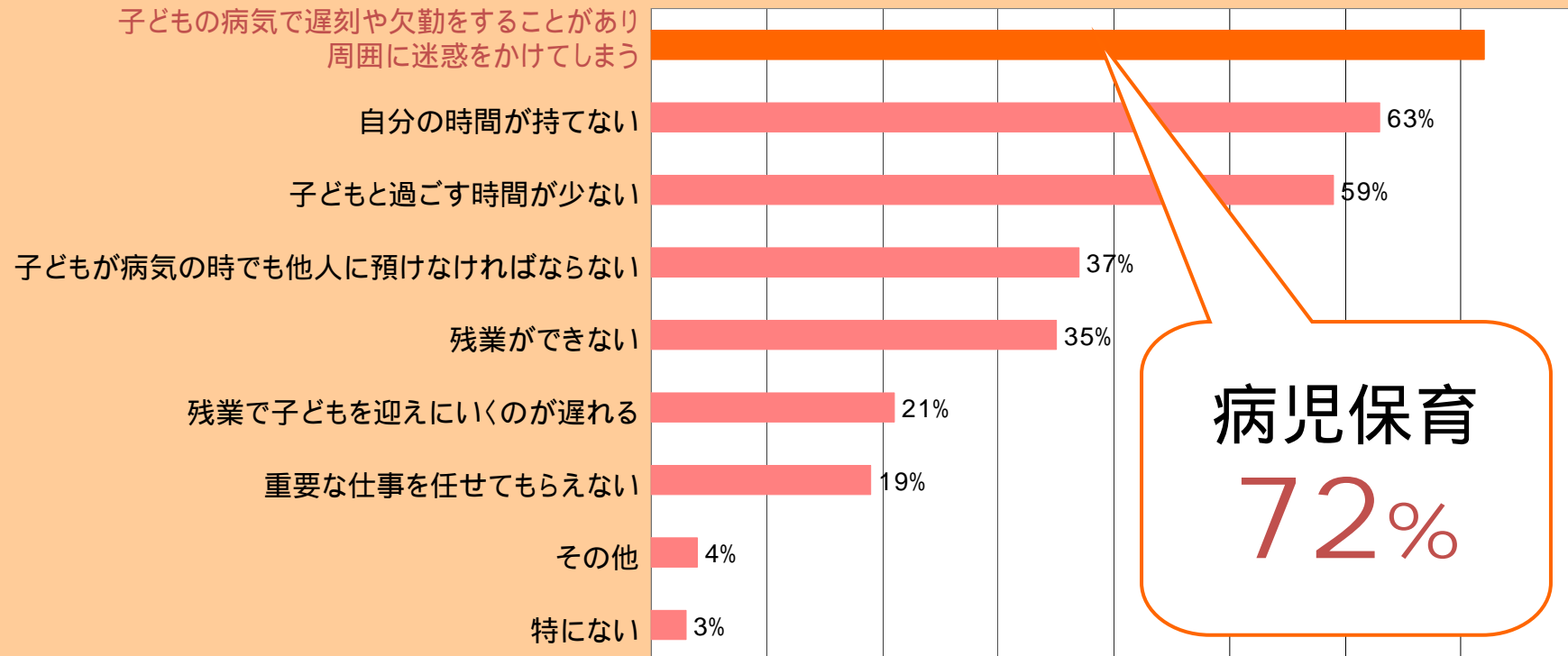
フローレンス理事の小坂クリニック内の病児保育ルーム風景

# 病児保育の実態

# ニーズの高さ

出所:インターネット総合調査(マクロミル)2002年

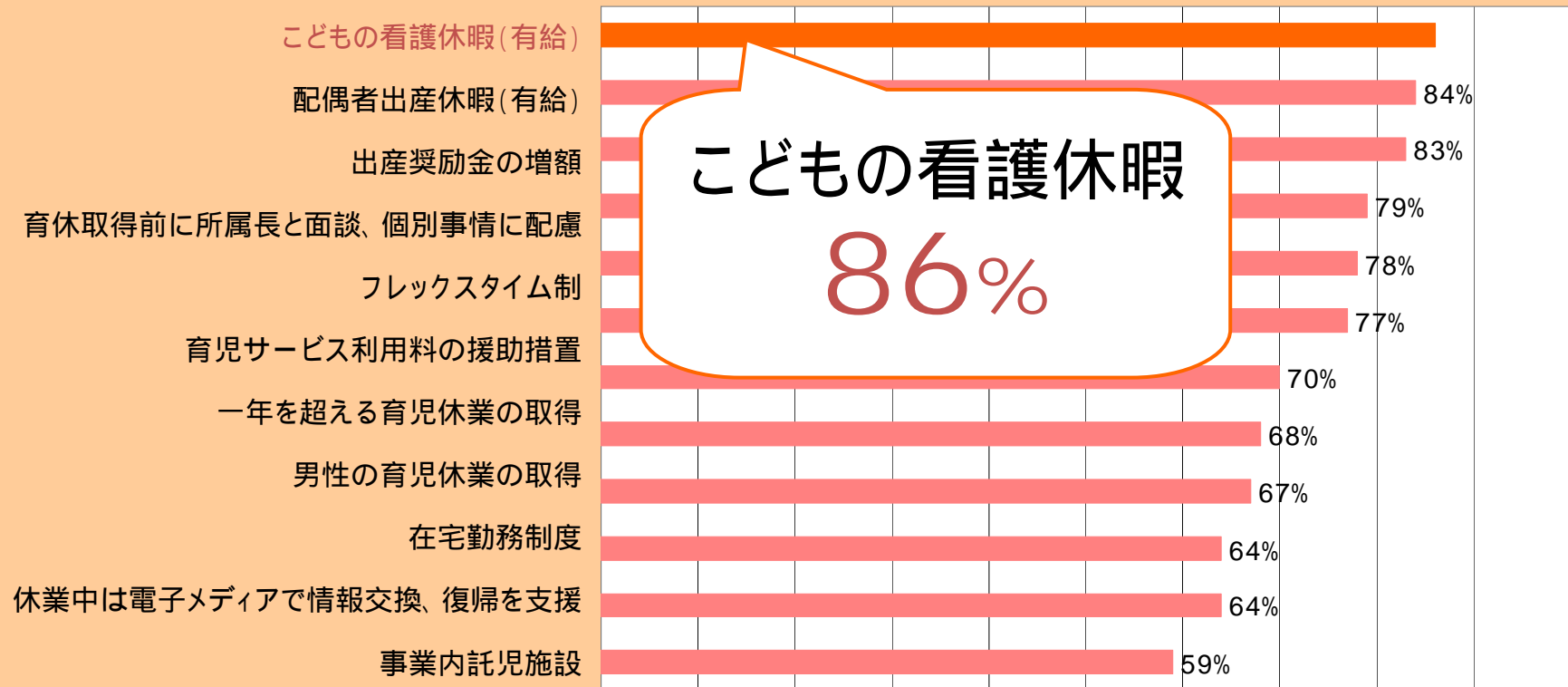
## 仕事と育児の両立で最も悩むことは？



# 病児保育の実態 ニーズの高さ

出所:野村総研2006年

必要性を感じている育児支援制度は何ですか？

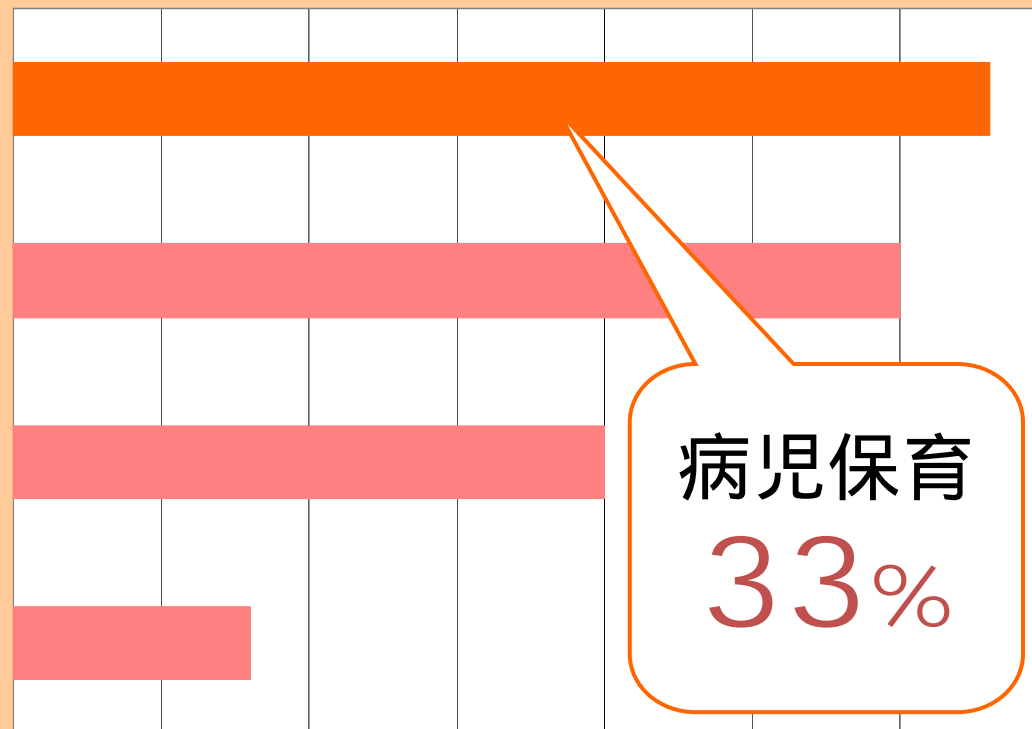


# 病児保育の実態 ニーズの高さ

出所:厚生労働省2000年

## 保育園に子どもを預けていて不満に思うこと

- 病気のときも預かって欲しい
- 休日や祝日に預かって欲しい
- 夜遅くまで預かって欲しい
- 保護者も参加できる行事を増やして欲しい

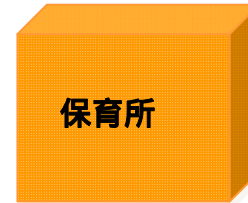


# 病児保育とは

## 既存モデル

### 保育所型

例)バンビ病後予後保育室(世田谷区)



保育所



病児保育室

### 医療機関併設型

例)小坂こども元気!!クリニック(中央区)  
フローレンス理事



小児科医院



病児保育室

### 単独型

例)エンゼル多摩(川崎市)  
フローレンス理事



病児保育室

## 数が少ない

- 全国に約640施設だけ
- 保育所全体の約3%と圧倒的に少ない

### 1歳女児放置、脱水症で死亡

車内5時間  
母親を聴取

東京都八王子市の駐車場で五日、一歳二カ月の女児がワゴン車に乗せられたまま約五時間放置され、脱水症で死んでいる。脱

責任者遺棄致死の疑いで近く書類送検する方針。調べによると、母親は五百午前九時五十分ごろ、パートで働く八王子市内のファミリーレストランの駐車場に車を駐車。後部座席に女児を乗せたまま車を離れ、仕事をしていた。母親が約五時間後の午後三時ごろ、車内でぐったりしている女児に気づき一一九番したが、死亡していた。

この日の天候は晴れで、気温が三〇度近くに上った。

母親は四人の子どもを保育所に預けるつもりだったが、この女児だけは熱を出したため保育所が保育を断った。母親は「まさか死ぬとは思わなかった」と話しているという。

2003/7/11 東京新聞

# なぜ増えない

それはなぜか？

経済的に自立できない

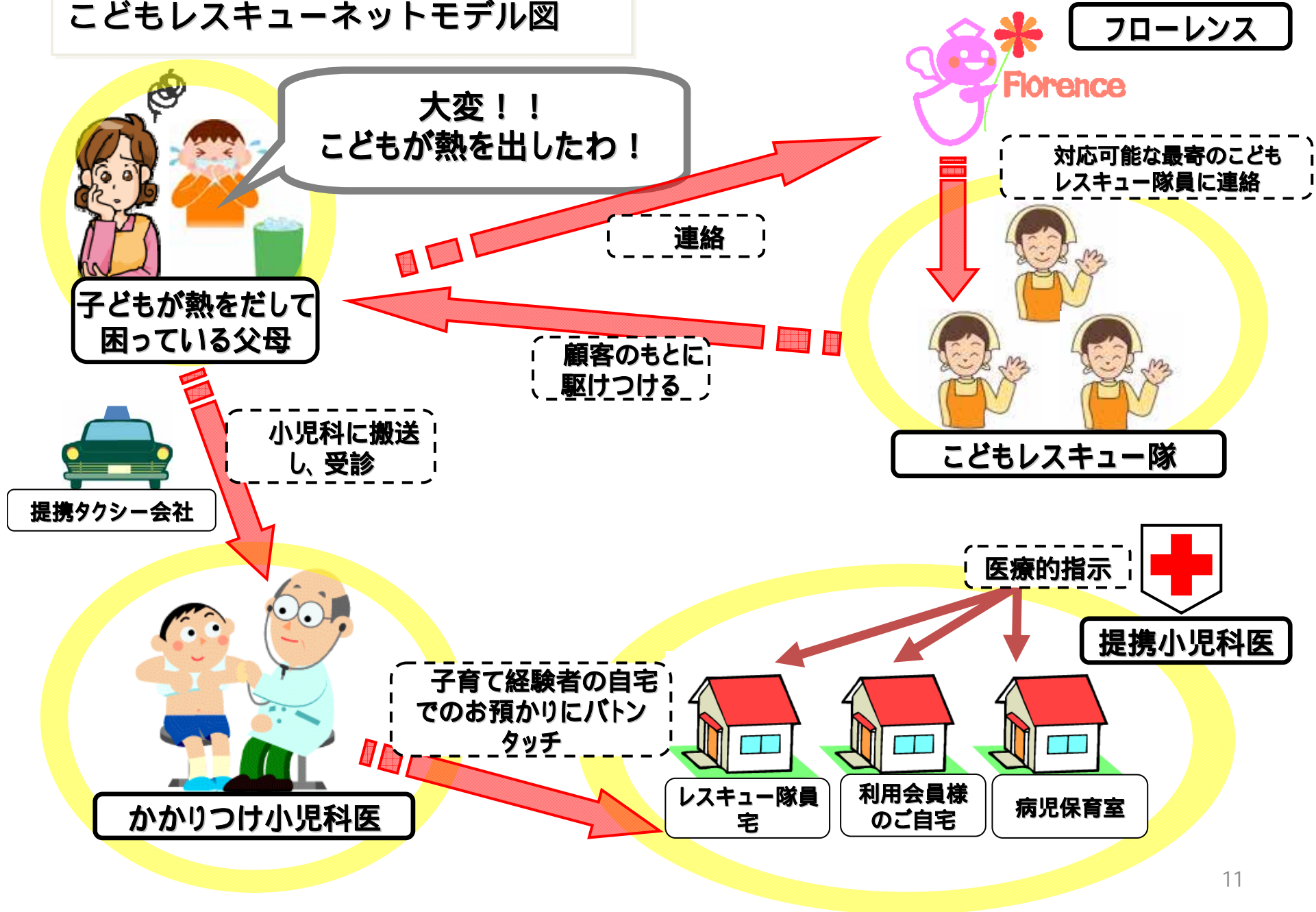
結果として

新規参入できない・広がらない

なぜ経済的に自立できないか？

補助金をもらおうと価格決定の自由が奪われ、さらに補助金自体も小額(補助金のジレンマ)

# こどもレスキューネットモデル図



# 共済型モデル

## 問題意識

1時間いくら、では相当高額でなければ成り立たない

安定的な収入のためには

発病率に応じた月会費を掛け捨て

レスキュー(病児保育)時には無料

なぜ経済的に自立できないか？

使わなければ月会費が下がり、使えば上がる自動車保険方式







なぜ公的病児保育は広がらないのか

答え：経済的に成り  
立たないから

# なぜ成り立たない？（2つの罨）

- 補助金の罨
  - 補助金が少なすぎる
- 委託の罨
  - ガチガチ仕様による手枷足枷

# 補助金の罫

病児保育施設補助( 病後児保育は更にこれ以下)

のべ預かりこども数(年)	補助金額(年)
50人～199人	200万円
200人～399人	480万円
400人～599人	700万円
600人～799人	920万円
800人～999人	1,120万円
1,000人～1,199人	1,320万円
1,200人～1,399人	1,520万円
1,400人～1,599人	1,720万円
1,600人～1,799人	1,920万円
1,800人～1,999人	2,120万円
2,000人～	2,320万円



## 東京都平均

小児科併設型の平均稼働率52.7%を定員数4名にかけると547人

補助額が少なすぎて、施設の大半が赤字に

# 委託の罭

- 開所時間 = 行政が決めた時間 (多くは17時半まで)
- エリア = 行政が決めた地域 (多くはその区のみ)
- 迎えに行く、等の工夫 = 行政の決めた通りにやらなくてはいけない

稼働率を上げようにも、身動きが取れない

# 厚生労働省がすべきこと

## 1. 補助テーブルの見直し

- ・基礎補助と成果補助の2段階

- ・立ち上げ初年度は定額支給

立ち上げ初年度は認知度も低く、オペレーションの確立が優先

## 2. 委託ルールの見直し

- ・事業者の裁量権を明示化

- ・ミニマムリクワイアメントを明示化

例: 開所時間は最低11時間

# フローレンス試案(病児保育対応)

## 基礎補助

定員数	補助金額(年)
4人	480万円 (保育士16万円 ×1人+看護師 24万円×1人)
8人	672万円 (保育士16万円 ×2人+看護師 24万円×1人)
12人～	864万円 (保育士16万円 ×3人+看護師 24万円×1人)

## 成果補助

のべ預かりこども数 (年)	補助金額(年)
50人～199人	100万円
200人～399人	380万円
400人～599人	600万円
600人～799人	820万円
800人～999人	1,020万円
1,000人～1,199人	1,220万円
1,200人～1,399人	1,420万円
1,400人～1,599人	1,620万円
1,600人～1,799人	1,820万円
1,800人～1,999人	2,020万円
2,000人～	2,220万円

# 自治体がすべきこと

- 厚生労働省が事業改正するまで、暫定的に  
上乗せ補助を行う
- 事業者の創意工夫を後押しする通達を発行